



県教連の皆様とともに

岩手県教育研究所連盟 会長 村上 弘

(岩手県立総合教育センター所長)

師走の候、岩手県教育研究所連盟の皆様におかれましては、本年度の事業推進にご尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

県教育研究所連盟は、今年度発足 65 年目を迎え、これまで県内各地の教育研究機関が連携を密にし、教育に関する調査・研究を充実させ、本県教育の推進、向上に寄与することを目的として活動して参りました。

10月の研修会では、国立教育政策研究所 客員研究員・名誉所員 猿田 祐嗣 先生 をオンラインでお招きし、「新しい学習指導要領における ICT 機器の活用と授業改善」と題してご講演頂きました。GIGA スクール構想が進む中、子供たちの資質・能力を育むために求められる授業改善の視点について具体的にご教示頂きました。

来る2月9日からは、岩手県教育研究発表会を開催いたします。今回も各教育研究所及び市町村教委から多くの発表があるものと思っています。各所からの発表が、本県教育の充実と発展に繋がりますことを期待しております。今回はICTを活用した新しい実施形態で開催いたします。加盟機関の皆様のご参加をお待ちしております。

変化が激しく未来の予測が困難な時代を前に、子供たち一人一人に社会の担い手として必要な資質・能力を確実に育てていくためにも、教育の専門機関としての当連盟の役割は更に重要になってくるものと存じます。研究所相互のますますの連携を図りながら、岩手の教育の推進、向上のために、ともに力を尽くして参りましょう。よろしくお願いたします。

令和3年度定期総会の報告

令和3年5月13日(木)、令和3年度岩手県教育研究所連盟定期総会を、オンライン形式で開催いたしました。

総会では、昨年度の事業報告及び決算報告を行い、今年度の役員案、所員研修会、岩手県教育研究発表会等の事業、予算案を承認いただきました。

承認いただいた令和3年度の役員は右のとおりです。

会 長	村上 弘	総合教育センター	所長
理 事	紀 修	盛岡市教育研究所	所長
	佐々木 健一	花巻市教育研究所	所長
	照井 英輝	八幡平市教育研究所	所長
	杉本 光生	総合教育センター	研修部長
監 事	侘美 淳	紫波町教育研究所	所長
	小山田 孝	矢巾町教育研究所	所長
事務局	総合教育センター	企画担当	
	八重樫 一矢	主任研修指導主事	
	小田島 一晃	主任研修指導主事	
	瀬谷 圭太	主任研修指導主事	
	及川 智春	研修指導主事	
	関向 真介	研修指導主事	
	菊池 貴彦	研修指導主事	
	古川 麻耶	主事	

■ 令和3年度東北・北海道地区教育センター協議会 ■

■ 令和3年度東北地区教育研究所連盟総会・教育研究発表大会 ■

令和3年10月22日（金）、山形県教育センター主管のもと、ZOOMにてWeb開催されました。センター協議会では、管理運営及び研究研修協議会、及び共通研究主題による研修会が行われました。情報教育分科会では、岩手県立総合教育センターの平松敏康研修指導主事が「高等学校共通教科情報科『情報Ⅰ』における情報活用能力を育成する学習指導の在り方に関する研究」と題して話題提供を行いました。東北教連教育研究発表会では、教科、教科外、情報教育の3分科会で発表が行われました。両会合には、本県から総合教育センター所長以下5名のほか、盛岡市、奥州市両教育研究所からの参加もありました。

【 管理運営協議会・研究研修協議会協議題 】（本県提案分）

- 教育センターにおける所員の資質向上と働き方改革の推進について
- コロナ禍及びICT活用推進の状況下における研修講座の実施や充実の工夫について

【 共通研究主題 】

- 学習指導「資質・能力を育む授業づくりと学習評価について」（青森県）
- 生徒指導「学校における不登校対策について」（山形県）
- 情報教育「『情報Ⅰ』における情報活用能力を育成する学習指導の在り方に関する研究」（岩手県）

【 教育研究発表テーマ 】

- 教科部会「自分の思いや考えを伝え合うことができる子供を育成する外国語科の授業づくり」（宮城県）
「小・中学校におけるカリキュラム・マネジメント推進に関する研究」（福島県）
- 教科外部会「学びにくさを抱えた児童生徒の理解と学習上の配慮」（秋田県）
「メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方」（福島県）
- 情報教育分科会「論理的思考を育む小学校プログラミング教育の在り方」（秋田県）
「情報教育を推進する取組」（宮城県）

■ 令和3年度全国教育研究所連盟研究協議会 ■

令和3年10月28日（木）、静岡県総合教育センター主管のもと、ZOOMにてWeb開催されました。静岡県総合教育センター副所長から「時代の変化の中で『学び続ける教職員』を支援する教育センターの在り方」と題した基調提案が行われた後、上智大学総合人間科学部教育学科教授 奈須 正裕 先生をお招きし、「時代の変化に対応する学校と教職員への支援の在り方」と題する基調講演が行われました。午後からは2つの分科会に分かれ、計4つの提言発表、及びグループ協議が行われました。本県からは、総合教育センターの宮沢一裕研修指導主事、前川啓太郎研修指導主事両名が参加したほか、盛岡市教育研究所からの参加もありました。

【 提言発表・グループ協議テーマ 】

《 分科会A 学校と教職員を支える教育センターの在り方 》

- エージェンシーを発揮するミドルリーダーの資質・能力の向上について（和歌山県）
- 静岡県公立高等学校教員の資質能力向上のための研修体系の開発（静岡県）

《 分科会B 時代の変化に対応する教育センターの在り方 》

- ICT活用を推進させるための課を越えた鳥取県教育の取組（鳥取県）
- 読み書きに困難のある児童生徒へのICTを活用した指導・支援（京都府）

■ 令和 3 年度岩手県教育研究所連盟研修会 ■

〔目的〕新学習指導要領に示された「情報活用能力」について、ICT機器を活用した授業実践をとおして育むための方策を総論や具体例から学び、各研究所における研究内容の推進及び県内教職員の授業改善等に活かす。

〔日時〕令和 3 年 10 月 4 日（月）13:00～15:30

〔演題〕新しい学習指導要領における ICT 機器の活用と授業改善

〔講師〕文部科学省 国立教育政策研究所 客員研究員・名誉所員
前教育課程研究センター基礎研究部長 猿田 祐嗣 先生

(1) 学習指導要領改訂のポイント ～21 世紀を生き抜くための資質・能力～

講演の冒頭、「Society5.0（超スマート社会）」の到来に向けた「学校 ver. 3.0」の姿や社会の変化に応じて求められる能力についてのお話とともに、教科等の内容と資質・能力を学習活動でつなぐ教育が有効であると教えていただきました。また、「令和の日本型学校教育」の基本的な考え方と ICT 活用の目的や意義、資質・能力を育むための支援ツールとしての位置づけ等について解説していただきました。

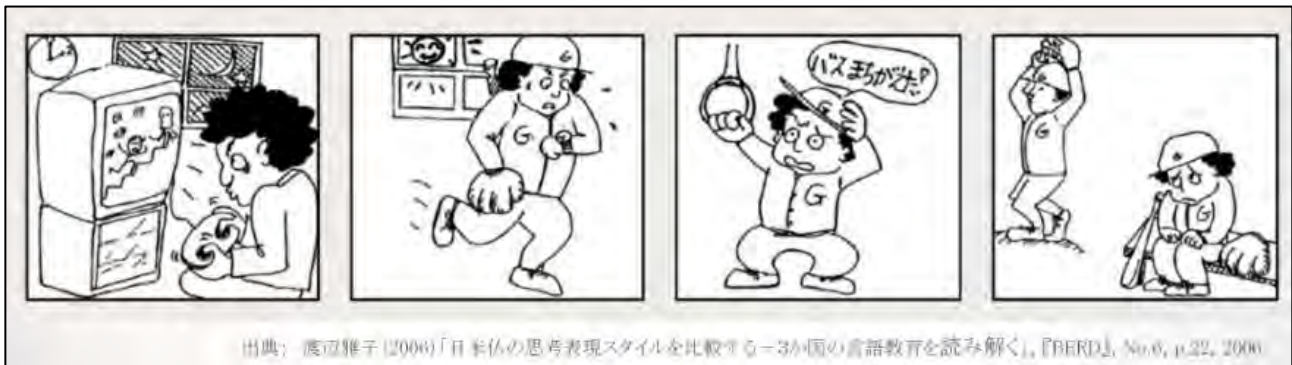


出典) 新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて～柴山・学びの革新プラン～、2018

後半では PISA や TIMSS の結果から考えられる授業改善の視点についてご教示いただきました。絵を見て作文を書く課題では、米国では不要な部分を切り捨て、局所的な因果関係に注目して説明する傾向、仏国では因果律と時系列を統合し、俯瞰的に全体像を述べようとする傾向が見られました。対して日本の子供の 9 割は、すべての情報を時系列で説明しています。捉えた情報を整理し、思考の筋道とその根拠を示しながら表現することが苦手であるという、日本の子供の課題が明らかになりました。

(2) 思考表現スタイルの日米仏比較 ～自分の考えを他者に伝わるように根拠を示して説明する～

後半では PISA や TIMSS の結果から考えられる授業改善の視点についてご教示いただきました。絵を見て作文を書く課題では、米国では不要な部分を切り捨て、局所的な因果関係に注目して説明する傾向、仏国では因果律と時系列を統合し、俯瞰的に全体像を述べようとする傾向が見られました。対して日本の子供の 9 割は、すべての情報を時系列で説明しています。捉えた情報を整理し、思考の筋道とその根拠を示しながら表現することが苦手であるという、日本の子供の課題が明らかになりました。



(3) 「問い」に対する答えの理由付け ～アーギュメント（論証）スキルの育成～

太郎さんと花子さんは、同じ乾電池と豆電球でそれぞれ懐中電灯を作りました。図のように花子さんの懐中電灯には反射鏡がつけてありましたが、太郎さんにはつけていませんでした。

太郎さんの懐中電灯 花子さんの懐中電灯

5メートル離れたところの壁に光を当てると、どちらの懐中電灯の方が明るいですか。

・太郎さんの懐中電灯
・花子さんの懐中電灯 (どちらかに○をつけよ)

また、そう答えた理由を説明しなさい。

同じ懐中電灯で反射鏡をつけたもの、つけていないものではどちらが明るいかを問う課題では、そう考えた理由の説明がポイントとなります。反射鏡の有無を証拠として、つけた方が明るいという主張をする際、どのような「理由付け」「反駁」を行うかが問われています。

子供たちの思考力を引き出すためには、問いを発する場面や環境の設定に配慮し、証拠やデータに基づいた理由付けによる論理的説明能力を育成する授業が大切です。ICTを活用し、学ぶ対象や仲間との対話を行うことで、より深い学びに向かうことができるでしょう。

出典) TIMSS 国際数学・理科教育動向調査, IEA 国際教育到達度評価学会, 1995

■ 令和3年度（第65回）岩手県教育研究発表会 ■

令和3年2月9日（水）から28日（月）までの期間で、岩手県教育研究発表会を開催します。今年度はライブ型、オンデマンド型、集合型と3つの実施形態を組み合わせ、ICTを活用した、従来とは異なる新しい形の発表会となります。令和元年度から3年間のメインテーマ「新しい時代を拓く子どもたちの主体的な学びの充実を図るカリキュラム・マネジメント」の締めくくりとして、サブテーマを「～主体的・対話的で深い学びの視点からの学習評価～」と設定し、全体会として講演会を行うほか、教科・領域等に関わる分科会を設置します。多くの方の御参加をお待ちしております。

■ 2月9日（水）

【全体会】＜ライブ型＞＜オンデマンド型＞

演題：新しい時代を拓く子どもたちの主体的な学びの充実を図るカリキュラム・マネジメント
～主体的・対話的で深い学びの視点からの学習評価～

講師：早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之 氏

■ 2月10日（木）

【学びの改革プロジェクト研究発表】＜集合型＞＜オンデマンド型＞

令和2年9月から7つの研究協力校において取り組まれてきた実践の成果を発表します。

・盛岡市立飯岡小学校 ・盛岡市立飯岡中学校 ・一戸町立一戸小学校 ・一戸町立一戸中学校
・盛岡第三高等学校 ・花巻北高等学校 ・水沢高等学校

■ 2月14日（月）～28日（月） ※設置する分科会等は変更になることがあります。

【特設分科会】＜オンデマンド型＞

1 学力向上 2 校種間におけるカリキュラム・マネジメント 3 コミュニティ・スクール
4 幼児教育・幼小接続

【分科会】＜オンデマンド型＞

国語 社会／地理歴史・公民 算数／数学 理科 音楽 図画工作／美術
情報教育／家庭／技術・家庭／商業 体育／保健体育 外国語活動／外国語 幼児教育
教育相談 特別支援教育 センターICT研究 道德教育

【企画展】＜オンデマンド型＞

学校紹介写真展 学生科学賞入賞作品展 学校公開ポスター展 教職大学院展

- ・ライブ型：オンライン環境で、参加者がリアルタイムで講演・発表を視聴する型
- ・オンデマンド型：オンライン環境で、事前録画した映像を視聴期間内に随時視聴する型
- ・集合型：発表者と参加者が同じ会場に集合して行う、従来の型

※【全体会】は、講演をライブ型で配信するほか、オンデマンド型でも配信します。【学びの改革プロジェクト研究発表】は、集合型で行う発表会をオンデマンド型でも配信します。

正式な開催案内及び参加申込方法の詳細は、12月初旬以降、総合教育センターWebページに掲載いたします。

総合教育センターWebページURL：<http://www1.iwate-ed.jp/>

総合教育センターをご活用ください

総合教育センターでは、要請研修、随時研修、どようび研修など様々なニーズに対応しています。詳細については各担当までお問い合わせください。

■ 企画担当 0198-27-2833

教育図書・資料の収集・提供、カリキュラム・マネジメント、いわての復興教育に関する内容

■ 教科領域教育担当 0198-27-2735

幼児教育から小学校・中学校・高等学校の教科・領域等の指導に関する内容

■ 理科教育担当 0198-27-2742

小学校・中学校・高等学校の理科の指導に関する内容

■ 情報・産業教育担当 0198-27-2254

情報教育、視聴覚教育、技術・家庭科、高校専門教育に関する内容

■ 教育支援相談担当 0198-27-2821

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における個別又は集団の教育支援に関する内容

センターWebページでは、教育研究、学習指導案、研修講座関連資料等各種教育情報を提供していますので、こちらをご覧ください。